

(1) 学校では

学習指導要領が改訂になり、いよいよ平成25年度から年次進行によって全教科での実施となります。その学習指導要領で、注目すべき点の1つに言語活動の充実が挙げられていますが、それらの授業を通して何が求められているのでしょうか。

本年度から、各学校が作成する教育指導計画に「言語活動の充実のための計画書」を盛り込むことになっています。そこで、言語活動の充実のための計画を振り返って見てみると、教務主任の皆さんは言うまでもなく、各教科主任をはじめとして、「特別活動」や「総合的な学習の時間」との連関を工夫して計画する生徒指導主事や進路指導主事の先生方に至る多くの方が、



「これでいいのだろうか？」
 「他校はどのように記載して取り組んでいるのだろうか？」
 「いいアイデアを知りたい！」



と、気になっているところではないでしょうか？

そこで、各校の「計画書」の中から引用した例を見て、それらが各教科の言語活動の充実として適切なものか、下表の左端の評価欄に○か×を付けて、確認してみましょう。また、自校の計画と比較してみるのも良いでしょう。

評価	教科	言語活動の充実のための具体的計画内容例 ※平成24年度各学校作成の教育指導計画(様式8)より引用
	国語	1年で読書指導や漢字テストや意味調べにより語彙の習得を、2年で文章の要約練習を通して論理的読解力の基本を、3年で小論文の課題演習を通して論理的思考力と表現力を育成する。
	地歴	授業で取り上げる著名な人物や場所、行事、風習などについて調べさせ、レポートを作成させる。また、クラス内で発表させる。
	公民	発問の機会を増やし、積極的な授業参加を促す。(発問に従って導入部分で前時を想起させ一問一答方式で答えさせ、授業の終わりに内容をまとめて発表させる。)
	数学	演習問題の解説を生徒自身に行わせ、他の生徒からの質問にも答えさせる。
	理科	実験や映像及び、さまざまな理科の模型の活用を通して、生徒の五感を刺激し、専門用語に対する理解を深めさせる。

保 体	教官室の入室時には必ず挨拶と正しい言葉遣いを指導し、授業では体育委員に欠席や見学者の報告をさせるほか、全員での号令かけなどで言語活動の充実を図る。
芸 術	美術では、自然や芸術、建造物などの美しさに触れる体験的な場を設定し、感性を磨き、創造的な表現と鑑賞能力を高める。
外 国 語	授業の中で、教師の後に単語や熟語・本文・基本例文の音読を行ったり、CDを聞いて音読することで正しい英語の発音やイントネーションを身に付けさせる。
家 庭	学校家庭クラブ活動として実施している保育所訪問を充実させる。
情 報	情報機器を用いて様々なことを考えさせ、表現させることで、想像力や表現力を養う。
農 業	「食品製造」の実習前に生産から消費までの流通の仕組みや食品の管理方法について班ごとに発表させ、ノートにまとめさせる。
工 業	各専門学科において、専門用語を理解し、対応できる生徒を育成する。
商 業	「ビジネス基礎」において秘書検定合格を目指して秘書のマナー等を学ばせる。この中で、話し方・聞き方・報告の仕方等を学ばせる。

いかがでしょうか。他教科の内容がよくわからないこともあるかもしれませんが、それぞれの「言語活動の充実」を評価するのに、○か×かの判断が難しく「△があれば……」と思うものがあつたのではないのでしょうか。ということは、「工夫はあるがこれだけでは……」と不十分さを感じているということなのです。それを理解してもらうために、ここではあえて○か×かで区分するとしたわけです。こうして判断すると、残念ながら○を付けられるものはなくなってしまいそうです。

それでは、「言語活動の充実」として考えると何が不足しているのでしょうか。あるいは、どのような部分が良くないのでしょうか。そのような疑問点を解消するためにも、どうぞこの先へ読み進んでください。必ずや、疑問点の答えが見つかり、スッキリとすることでしょう。

学校では、目の前の生徒の力を伸ばし、希望進路を実現するために先生方の様々な取組がなされています。それらを司り、交通整理をしていくことをカリキュラム・マネジメントと呼びます。その視点で新学習指導要領で示す言語活動を明確につかみ、教科や学校全体で協議して取り組む。ここから、授業改善が進み、各学校の抱える課題を打破する契機となるのではないのでしょうか。

(2)「言語活動の充実」に向けた課題

高等学校では、下記のような声もあって、ややもすると知識・技能の習得のための授業が中心となり、それらを活用する力をはぐくむこととのバランスを図れないことがあります。

生徒の実態から基礎的・基本的な知識・技能の習得で手一杯だ

授業進度の確保に追われて活動の時間が取れない

新しいことへのチャレンジは大変だし失敗を思うと取り組めない

入試が変わらなければ授業を変えられない

生徒の学習意欲が高まらなければ実践できない

各科目における具体的な指導方法がよくわからない

授業で試みたことはあるが効果がわからない

必要な知識をわかりやすく効率的に教えることが最優先だ

添削等に追われて教科での綿密な打合せをするゆとりがない

就職希望者に知識や資格を増やすことが何よりも大切だ



生徒の希望進路の実現とともに、生涯にわたって習得した知識・技能を活用できる生徒を育てるために、私たち教師一人一人の創意工夫が求められています。そのためには、個々人の努力だけでなく、教科全体で十分に話し合い、各科目の授業改善を図るという、組織としての取組が必要不可欠です。

では、上記のような声を解決して授業改善を図るために、これから言語活動についてより具体的に見てみましょう。